

新・東京の鳥・1

ヤマガラ 40年間に5倍増えた明治神宮のアイドル！

東京・代々木に広がる緑地・明治神宮を代表する鳥といえば「ヤマガラ」。この杜が造成される前から、この地に生息していることが知られています。しかし、その数は少なかったようです。その証拠は2つあります。ひとつは、いまから40年以上も前の1971・72年に実施された第1回の明治神宮境内総合調査で、その結果は『明治神宮境内総合調査報告』として1980年に出されていますが、その報告によると、1955年以前は、ヤマガラが観察されていない月もあり、数が少なかったことを物語っています〔表1〕。



その後はときどき空欄（記録なし）がある程度です。世界的には日本付近にしかいないヤマガラですので、それを見たいという外国からのバードウォッチャーには“明治神宮へ”と案内すれば100パーセント満足してもらえる状況となっています。しかし、この形の表は、ヤマガラがいる・いないというだけですので、その数の変化を知ることはできません。近年は探鳥会での観察数が記録されていますが、40年前との比較となると皆目見当がつかいません。それを知ることができるのが下記の2つの図です〔図1・2〕。

図1の調査は、筆者が学生だったころに、調査責任者だった故・高野伸二さんや松田道生さんと共に調査した時の結果です。

テリトリー数は4個（1971年）と5個（1972年）で、繁殖個体数は8～10羽ということになります。図2は、筆者と研究部部員の川内桂子さんと、2012年に調査した結果で、テリトリー数は22個となり、数は44羽ということになります。40年間でヤマガラは5倍に増えたということになります。

（川内 博）

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	Ⅻ
1947												
48												
49												
1950												
51												
52												
53												
54												
55												
56												
57												
58												
59												
1960												
61												
62												
63												
64												
65												
66												
67												
68												
69												
1970												
71												
72												
73												

表1 明治神宮におけるヤマガラの月別記録状況  
明治神宮境内総合調査報告から

【表凡例】 縦軸：年 横軸：月  
■：記録あり □：記録なし ▨：記録不明

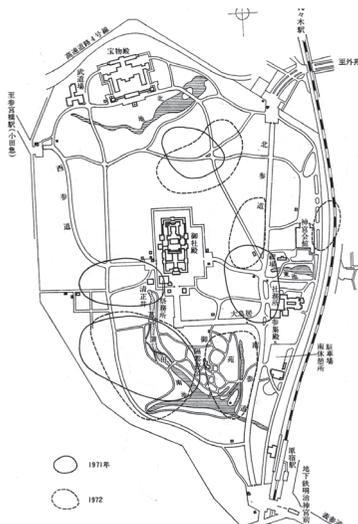


図1 明治神宮境内総合調査報告から

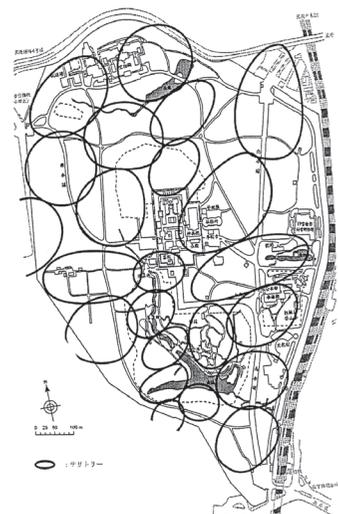


図2 第二次明治神宮境内総合調査報告から